



開成町立開成幼稚園

## にじいろ通信

第3号

発行日：令和8年8月1日

発行者：園長 田中 栄之

### ひとつひとつが集まって

青、紫、ピンク、白……街角や公園で色鮮やかに咲き誇るあじさい。

あじさいの大きな丸い花。実は、あの大きな輪はひとつの花ではなく、「ガク」と呼ばれる小さなパーツがたくさん集まってできたものです。

子育ての毎日、まさにこれに似ています。

- ・あいさつができた
- ・ちゃんにご飯を食べた
- ・一緒に笑い合った

ひとつひとつは、ごくごく小さな日常の出来事(小さなガク)に過ぎないかもしれません。



でも、その小さな毎日の積み重ねが、気づいたときには「子どもの成長」と

いう大きな花になっています。

「今日も特別なことは何もできなかったな」と落ち込む必要はありません。

今日重ねた小さな関わりは、すべて大きな花を形作る大切な『ひとつ』です。

### 花が落ちても大丈夫

日日草の名前の由来を知っていますか？

日々新しい花を次々と咲かせ、毎日絶え間なく愛らしい姿を見せてくれることからその名がついたと言われています。

日日草の花が数日で落ちるように、子どもの気持ちや機嫌、成長の波にも「落ち込む日」や「うまくいかない日」があります。

せっかくだ  
きたことが  
急にできな  
なったり、  
かんしゃく  
を起こして  
しまっ  
たり。



そんなとき、親としてはつい焦ってしまったり、「どうして？」と不安になったりするものです。

そんな時は、日日草を思い出してみてください。咲いている花が落ちても、次のつぼみがちゃんと控えています。

今日という一日がうまくいなくても、それは成長のプロセスが止まったわけではありません。心の中で次のつぼみが育つための、大切な「準備の時間」だったのかもしれない。



## 太陽を探して

太陽に向かって真っ直ぐに大輪を咲かせるひまわり。

ひまわりの若い芽は、太陽の動きを追いかけて東から西へと向きを変えます（光屈性）。誰かに教えられたわけでもないのに、自分を成長させてくれる光を自分で見つけ、そちらを向くのです。

親ができる最高のサポートは、子ども



を無理やり特定の方向に向かわせるのではなく、子どもにとっての「太陽（興味・

好きなこと・心地よい場所）」と一緒に探してあげることです。

- ・絵を描くのが大好きな太陽
- ・虫を観察するのが大好きな太陽
- ・おしゃべりをするのが大好きな太陽

子どもが「あっちに光がある！」と見つけたとき、その方向へ自由に顔を向けられる温かい環境をつくってあげたいものです。

## 見守る勇気

マリーゴールドという花、見ているだけでどこかホッとするあたたかさがあります。鮮やかなオレンジや黄色の花びらは、太陽の光をそのままギュッと閉じ込めたかのようなのです。

マリーゴールドは非常に丈夫で、多少のやせた土でも、

日当たりさえあれば元気に花を咲かせます。過剰に世話をすると、かえって葉っぱ



ばかりが茂って花がつきにくくなることもあるそうです。

子どもも同じように、信じて少し見守る「余白」が必要なときがあります。

手を出しすぎないこと。失敗するチャンスを残しておくこと。あれこれ口出しをしすぎず、子ども自身の持つ「伸びる力」を信じて少し引いて見守る。その適度な放任と信頼が、子どものたくましさや自立心を育てていきます。

## にじいろノート

今回は、園内に咲いている花をテーマに取り上げてみましたが、いかがでしたでしょうか。

園長に就任してから、気づけばあっという間に4か月が過ぎました。右も左もわからず、手探りのスタートではありましたが、日々の保育の中で見せる子どもたちの満面の笑顔と、たくましい成長の姿にたくさんのパワーをもらって毎日でした。

一学期は電気設備のトラブルで臨時休園になるなどハプニングもありましたが、皆様のご理解とご協力のおかげで、無事に終業日を迎えることができました。本当にありがとうございました！

そして、どんな時もひとつになって子どもたちを支えてくれた先生方にも感謝の気持ちでいっぱいです。

この夏休み、職員もたっぷりエネルギーを充電して、二学期の準備を整えています。

二学期も楽しいイベントがたくさん待っています！

ぜひ保護者の皆様も、子どもたちと一緒に思いきり楽しんでいきましょー！